

大学院コンサートシリーズ・名手と共に 「ピアノデュオ ドゥオールを迎えて」

A.Borodin // Polovetsian Dances from "Prince Igor"
(ドゥオール 2台4手)

M.Ravel // Ma Mère l'Oye
1. Pavane de la belle au bois dormant
4. Les entretiens de la belle et de la bête
5. Le jardin féerique
(田中広輝・服部直士 連弾)

C.Saint-Saëns // Danse macabre Op.40
(田中広輝・服部直士 2台4手)

G.Gershwin // Rhapsody in Blue
(松波慎剛・門岡明弥 2台4手)

J.S.Bach-Howe // Schafe Können sicher weiden BWV208
(ドゥオール 連弾)

F.Schubert // Fantasie f-moll D.940
(橋本和磨・相田実久 連弾)

S.Rachmaninoff // Suite No.1 "Fantasie-tableaux" Op.5
1. Barcarolle
2. La nuit - l'amor

S.Rachmaninoff // Suite No.2 Op.17
4. tarantella
(森合爽子・有賀隆 2台4手)

2020年12月15日(火)
18時30分開演(18時開場)
シルバーマウンテン1階

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

■ 曲目解説

《A.ボロディン／歌劇「イーゴリ公」よりダッタン人の踊り》

ロシア国民楽派「5人組」の一人であるボロディンが12世紀キエフ公国の分裂時代、イーゴリ公が遊牧民ポロヴェツツ人（ダッタン人）と戦う愛国物語をオペラ化した《イーゴリ公》の第2幕で演奏される音楽である。囚われの身となったイーゴリ公に敵将コンチャック・カンが慰めようとして盛大な歌舞の宴を開く場面で演奏されるものである。

（ドゥオール 2台4手）

《ラヴェル／マ・メール・ロワ》

ラヴェルの友人のゴデブスキー夫妻とその子供たちのために書かれたピアノ組曲。本日は3曲を抜粋して演奏する。第1曲 眠りの森の美女のパヴァーヌ、邪悪な妖精の呪いを受けて長い眠りについた王女の寝台のまわりで宮廷に仕える男女がゆっくりと踊るパヴァーヌ。第4曲 美女と野獣の対話、呪いで野獣に変えられてしまった王子と姫との対話を描いた音楽。姫は軽妙なメロディで、野獣は重低音で描かれている。グリッサンドの後、野獣は王子の姿に戻る。第5曲 妖精の園「妖精の国」というのは「眠りの森の美女」が王子のくちづけによって眠りから覚めるシーンのことを指している。しっとりとした始まった後、次第に大きくなり、最後はキラキラと煌くような音が溢れ、暖かく祝福するようなクライマックスとなる。

（田中広輝・服部直士 連弾）

《サン＝サーンス／死の舞踏 作品40》

午前0時の時計の音とともに骸骨が現れて不気味に踊り始め、次第に激しさを増してゆくが、夜明けを告げる雄鶏の声が響きわたるや墓に逃げ帰り、辺りが再び静寂に包まれる。

（田中広輝・服部直士 2台4手）

《G.ガーシュウィン／ラブソディ・イン・ブルー》

ガーシュウィンは1898年にニューヨークで生まれた作曲家・ピアニストである。彼が24歳のときに作曲したこの曲は現代ではクラシック音楽として分類されているが、哀愁漂うジャズの雰囲気も兼ね備えている。そのうえで、ラグタイム・ブルース・クレツマーといった要素が織り込まれた楽曲は、まさに多様な人種・文化・歴史が混在する“ニューヨーク”を象徴した曲であると言えるだろう。しかし、楽曲内に織り込まれた複雑な音楽要素は決して順位づけられることはない。どこから聴いても楽しむことができ、どのフレーズからでも成立するという構造は、まるで人種や性別などの壁に分断されることなく、この社会全体がフラット（＝自由）であるということを表しているようだ。本来はオーケストラとピアノの作品として誕生した楽曲だが、今回は2台ピアノ編曲で演奏する。

（松波慎剛・門岡明弥 2台4手）

《J.S.バッハ＝ホウ／羊は安らかに草を食み BWV208》

「狩猟カンタータ」の名で知られる世俗カンタータ第208番「わが楽しみは、元気な狩だけ」は全15曲からなる世俗カンタータの一つである。《羊は安らかに草を食み》は第9曲として歌われるアリアで、「良き牧人が見守るところ、羊たちが安らかに草を食む。統治者が優れている地では、安息と平和が訪れる」といった内容である。原曲はリコーダーによる愛らしい導入の後、ソプラノが大らかにアリアを歌う。本日はメアリー・ハウの連弾編曲版で演奏する。

（ドゥオール 連弾）

《F.シューベルト／幻想曲 D.940》

シューベルトは31歳という若さでこの世を去った。この曲は、最期の年1828年に作曲されたピアノ連弾曲でシューベルトのみならず、全ての作曲家の連弾曲の中でも最も重要な作品として位置づけられている晩年の傑作である。シューベルトは21歳と27歳の時、ハンガリーの貴族エステルハージ伯爵一家の姉妹マリーとカロリーネにピアノ講師として雇われる。二度の出会いでシューベルトは、妹のカロリーネに強い恋心を抱く。シューベルト27歳、カロリーネ18歳の1824年の夏であった。そして4年後の1828年「かなわぬ恋」の想いを込めてこの曲を作曲し、カロリーネに献呈した。作品は、切れ目なく続く3つの楽章から成るが、実質的には4部分構成といえる。暗く陰鬱であるが、非常に魅力的なシューベルトらしい第1楽章冒頭の主題が、第3楽章の後半に回帰し、やがてフーガを展開して作品を閉じるといった、構成的にも整った作品である。

（橋本和磨・相田実久 連弾）

《S.ラフマニノフ／組曲第1番『幻想的絵画』Op.5、組曲第2番 Op.17》

組曲第1番は1893年に作曲され、詩から得たインスピレーションを基に作曲された作品であり、それぞれの曲の冒頭に詩のエピグラフを添えている。

第1曲 「舟歌」ロシアの詩人レールモントフの「ベネチア」の一節が引用されている。漂う波のような伴奏にのせて、徐々に感情の高まりをみせながら音楽が豊かになっていく。第2曲 「夜と愛と」イギリスの詩人バイロンの詩が引用されている。ナイチンゲールの鳴き声を彷彿とさせる旋律とアルペジオで美しく曲がはじまる。装飾的な音とともに音楽は徐々に高まりをみせ幕を閉じる。

《交響曲第一番》の失敗により精神的痛手を負い、作曲活動休止を経て1901年に組曲第2番が作曲された。第4曲 「タランテラ」ナポリの舞曲である。毒蜘蛛のタランチュラに噛まれるとその毒を抜くために踊り続けなければならない、その苦しさ故に死にゆく様を表現したという説がある。

（森合爽子・有賀瞳 2台4手）

～ 休憩 ～

■出演者プロフィール

～ドゥオール～ 2人が解き放つ 光のハーモニー

これまでの750ほどの演奏活動と並行し、雑誌AERAインタビュー、NHKEテレ「天才てれびくんYOU」出演、音友web「ONTOMO」連載、彩の国さいたま芸術劇場での「ピアノデュオ はじめのいっぽ」ワークショップ、YouTube「おうちドゥオール」など、ピアノデュオをより身近なものへと常に前進するドゥオール。

藤井隆史：東京藝術大学大学院修了。文化庁、DAAD 奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、国家演奏家課程(ソロ)及びピアノデュオ科最優秀修了。

現在、武蔵野音楽大学講師。

白水芳枝：東京藝術大学卒業。野村文化財団、DAAD 奨学生としてドイツ・マンハイム音楽大学大学院に学び、国家演奏家課程(ソロ)及びピアノデュオ科最優秀修了。

現在、国立音楽大学講師。

'04年デュオ結成後、国際的な賞を数多く受賞。以後の活動は聴衆や音楽誌から高い評価を受けている(リリースした5枚のCDはレコード芸術誌特選盤選出、'18レコードアカデミー賞ノミネート)。

'18年ドイツツアー、'19年シンガポールでのマスタークラス&リサイタルシリーズを大成功のうちに終え、現在アメリカ・ドラノフ財団Piano Slam13アーティストに選ばれプロジェクトに参加するなど、海外での活動も展開中。

近年はピアノデュオでの後進の指導にも力を注いでおり、彩の国さいたま芸術劇場共催、カワイ梅田協賛のピアノデュオセミナーや、洗足学園音楽大学大学院2台ピアノクラス、武蔵野音楽大学での連弾講座、相愛、同志社女子大他での講座など、ピアノデュオの道を切り拓く指導者として、今後の更なる展開が期待されている。

公式サイト：<http://www.yoshie-takashi.com>

公式ブログ：<http://ameblo.jp/yoshie-takashi/>

ドゥオールオンラインショップ：

<https://duor.buishop.jp/>